

「みんなが笑顔で わくわくする楽校」をめざして

校長 上原 義人

爽やかな春風とともに、新年度が始まりました。新1年生76名を迎え、24学級（くすの木学級6学級を含む）、全校児童573名、教職員61名での新たなスタートです。お子様のご入学・ご進級、誠におめでとうございます。



この4月より、鷹南学園三鷹市立東台小学校 第14代校長として着任いたしました上原 義人（うえはら よしひと）と申します。3年ぶりに東台小へ帰ってまいりました。

歴代の校長先生方、そして保護者・地域の皆様が大切に築いてこられた歴史と伝統ある本校に、今度は校長としてかかわれることに、大きな喜びとともにその責任の重さを深く受け止めております。

子どもたち一人ひとりの「分かった」「できた」を大切に

本校に通う子どもたち一人ひとりが夢や希望をもち、自分の可能性を広げていかれるよう、自分で考え、学び方を工夫していく力を育てながら、「分かった」「できた」という実感を大切にする授業づくりを進めてまいります。

また、友達と考えを伝え合い、認め合いながら学びを深める中で、自分も友達も大切にできる心を育ててまいります。学力の向上はもとより、人とのつながりの中で育つ力を大切にしながら、子どもたちの健やかな成長を支えてまいります。

一人で悩ませない学校へ

子どもたちにとって「安心して過ごせる学校」であることは、何よりも大切です。

いじめや登校への不安など、子どもたちが抱える様々な悩みに対しては、早期発見・早期対応を基本に、ご家庭や関係機関と連携しながら丁寧に支援してまいります。

どの子も決して一人で悩ませない～それが本校の揺るがぬ姿勢です。全教職員が組織として力を合わせ、子どもたちの小さな変化にも気付き、心に寄り添い続ける学校でありたいと考えております。

「みんなが笑顔で わくわくする楽校（がっこう）」

本校がめざすのは、「みんなが笑顔で わくわくする楽校」です。「わくわくする楽校」とは、単に知識を習得する場ではありません。子どもたちが「明日はこれがしたい！」と目を輝かせて登校し、教職員が「あの子の成長をどう支えようか」と創造性を発揮できる場です。

「笑顔」は安心の証であり、「わくわく」は未知への挑戦（学び）の原動力です。失敗を恐れず、互いの存在を認め合える温かな居場所こそが、これからの時代を生き抜く力を育む土壌（子どもたちのウェルビーイング）になると信じています。

○子どもたちにとっては、「今日は何をしよう」「明日も学校が楽しみ！」と期待をもって登校できる学校。

○教職員にとっては、専門性を高めながら子どもたちと共に成長することに喜びを感じられる学校。

○保護者の皆様にとっては、子育てを共に考え、安心して相談できる学校。

○地域の皆様にとっては、未来を担う子どもたちの成長を共に支え、誇りに思える学校。

この「楽校」を実現するために、私は以下の3つの「対話」を大切にします。

【子どもとの対話】子どもたちを単なる「教育の受け手」ではなく、「共創のパートナー」と捉え、子ども自身の意見を聴き、その声を学校運営に反映させます。

【教職員同士の対話】一人で抱え込まず、知恵を出し合い支え合う「チーム東台」の同僚性を高め、大人自身が働く楽しさを実感できる職場環境を構築します。

【地域・保護者との対話】学校を閉ざされた場所にせず、地域の力を教育活動に融合させ、多世代が共に

学び、育み、喜び合える「スクール・コミュニティ」の構築を目指します。

「誰もが笑顔で主役になれる学校」、それが東台小学校の目指す姿です。

私は、子どもたちの笑顔や挑戦する姿から、いつも大きな力をもらっています。校長としてだけでなく、一人の教育者として、毎日子どもたちの声に耳を傾け、学校の様子を自分の目で見て、共に考え続けてまいります。子どもを真ん中に、保護者や鷹南学園コミュニティ・スクール委員会をはじめとする地域の皆様と手を携えながら、共に学び育てる「共育」、協働して支える「協育」を進めてまいりたいと願っております。

皆様とともに創る東台小学校の一年が、子どもたちにとって実り多く、温かな時間となるよう、全力で取り組んでまいります。本年度も、温かいご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。